

北の道先案内人 とがし遊魚がいく!

鮎温泉食の旅

2008
秋田の夏物語

秋田は、涼しいのだ!

関東以南は連日猛暑というよりも極暑のようで、沼の水も生温いとかで、日中の釣りは、我慢釣り大会だつてね。我が地は、真夏日の日が何日あったのかなあ。今年くらい過ししやすい夏もマレかもしれませんが、特に、朝夕は半袖姿だと寒いくらいでした。

夏休みを利用され関東から来た我が釣友は「涼しい、涼しい」と連発の上、クシヤミが飛び出して風邪引いて帰られました。ところが、雨が少なくて各湖沼は水不足で、例年よ

りは減水で、釣りにならない沼もあるくらいでした。

前号でも触れましたが、八郎潟は完全復活の兆しです! 本湖の続く河川で、7寸前後の小ヘラが入ればバクの日が多々あり、前年までは考えられない現象だ。

八郎潟に限らず、バスの勢いがおさまりにかけてるのでしょうか、湖沼で、小魚を追いまわすバスの光景が見えなくなってます。でもね、今度は、空からの天敵である鵜&ミサノが増えているのが心配だ。自然の法則なのでしょうかね。

秋田では、映画「釣りキチ三平」が!

当店の顧客の皆さんの夏休みは、遠出

遠征にでかけるのだが、ガソリンの高騰で、県外の釣り場に足をのぼした人は皆無。北京オリンピックの影響もあるかも知れないけど、

「原油ハブルもそろそろ終盤」と云つてる経済評論家もいますが、ガソリン価格が下がらないことには、

「釣行回数も激減で、遠征なんてとてもとてもできないよ」が、釣り場での会話だ。

当店で経営してる「ザ・遊魚池」のヘラブナの大多数が皮膚病を患い、経営者である自分は頭痛の種でしたが、養殖業者さんの指導のもとに、「5リットルで7万円もする高価な高価な服用薬をエサ(ペレット)にマブして10日間与えたところ、完全にマブしてビックリ! 野釣り場では、皮膚病に患ってるヘラブナをいぶん見かけますが、値段がね。血統書付きの犬猫が病気になるややす



【トガシCUP in 湯沢大台公園】
毎年8月15日は、秋田は東部地区で湯沢大台公園を会場に開催されており、今回は50名の参加で、一日和気藹々と釣りを楽しみました。
普段は、短竿の両ダンゴで、入れバクとなるのだが、数10名が入釣されると、いっきに食い渋り、ウキの周りにはいるのだが、なかなか食わないので超難解な釣りに変貌されます。そんな中での優勝は、21尺ポンのバラケにオカメやグルテンのセット釣りをされた本間高さんの4kg強でした。ここは足場もよく県南部一番の釣り場です。毎年、相馬産のへら鮎を200kg前後放流されており、今秋は400kgの放流を予定しております。濁りがベストです。

いと同様で、ヘラブナも改良に改良され、3年で急激に大きく飼育されるから、病気になるやすいのでしようね。ヘラブナが大量に死んだ沼でも、マブナの死魚が見られませんが、マブナは抵抗力抜群なんですよ。

喉奥まで刺し込むのはやめてもらいたいもんです。
現在、秋田県内各地で、映画「釣りキチ三平」のロケが行われております。当店に近くの川(馬場目川)でもロケされてますので、「イワナの物語」なかもね。なにはともあれ、釣り全般が停滞気味の昨今です。この映画が起爆剤となり、釣りに興味をもってもらいたいものです。



【最近入門の若者二人組】

小学校の時に「鮎釣り」を経験していたそうで、なかなか手筋が良く、もう立派なヘラ師さんだよ。釣りがやりたくて休みが待ち遠しい、大工さんとトタン屋職人の仲良し二人組です。今回初めての大会参加で、成績はイマイチでしたが、次回は優勝圏内に入ってくることでしよう。若者達がドンドン入門されると、釣り場も明るくなるよね。



【手打ち でん喜そば】

戸波鉱泉より車で5~6分の地にあります。とてもとても商売をやるような立地条件でなく、たんぼの側のあり、場所を探すにはちょっと難しいよ、たどりついて、「アレ! 蕎麦屋かな?」と疑心暗鬼だ。農家を営んでおり、主人は勤め人を退職されてからこの道にはいられたようで、一生懸命ですよ。蕎麦も自家製と聞かれます(十割蕎麦です)。歯ごたえがあり美味しいぞ。蕎麦の後に、主人自ら入れてくれる珈琲がまたいいよね。ここは増田町で、「釣りキチ三平」作者の矢口高雄さんの故郷でもあります。



【戸波鉱泉】

湯沢大台公園より車で5~6分かな? リンゴ畑の中の細い道を進むと、その奥にひっそり佇んでます。この温泉は大正時代の地震の時に沸きだした温泉で、湯船は4~5人でいっぱいになるが、乳白色の硫黄の香りがプンプするヌルヌルツルツルの温泉です。

効能は、大台公園でいれバクをかけた釣りの黄金の腕の疲労をとってくれます。冗談冗談、神経痛やリュウマチに良く効くようだよ。